

Future Process

DAS DIGITAL COMMUNICATIONS FORUM 2010

DAS デジタル コミュニケーション フォーラム 2010 「フューチャー プロセス」

知的資源をより活用できる環境とは。
デジタルデザイン、システム、ノウハウなど
ものづくりプロセスの未来を探る。

2010年のテーマ「フューチャープロセスを考える」

従来、個人に暗黙知として蓄積されてきた発見力・視点力・構成力など知的資源をいかにシステム化し、ものづくりに活用するかが重視されています。実現するには、ものづくりに携わる全ての担当者が、イメージやアイデアを正確に認識し、起こりうる問題を発見しやすくするシステムが必要となります。

これには、デジタル化による「見える化」をすすめ、暗黙知を形式知化してさまざまな事例に活用できる環境が必要で、将来的に、ものづくりにおける競争力が高められます。

本事業では、知的資源の活用事例を基礎にものづくりプロセスにおけるデジタルデザイン・その意義・方法、コラボレーションのノウハウなどを通じて、デジタルプロセスの現在と未来のコミュニケーションを行う方法を探ります。

3年間のテーマ

- 2009 デジタルイノベーションはデザインからはじまる
- 2010 フューチャープロセスを考える
- 2011 Takumi・Wazaの暗黙知を形式知として未来に伝承

DAS デジタル コミュニケーション フォーラムとは

関西地区におけるものづくり地域活性を目的とし、知的資源の活用のためにデジタルものづくり経営の重要性をマネジメント層に啓蒙・訴求するとともに、関西地区でのものづくりの活性化推進・飛躍、そしてITを基礎としたコンソーシアム育成・活用を目指します。

ものづくり企業においては「デジタルデザイン」が経営資源として非常に大きなファクターといえます。感性、人間工学、ユーザビリティ、生活者に対する視点、スタイルのこだわりなどデザイナーの持つ知的資源をより活用し、製品開発の上流から下流を結ぶ企業の情報システムの一環として位置づけなければ、効率的な開発体制は考えられない時代となってきました。起こりうる問題を提起するために、企業、学生向けに2009年～2011年の3年間のスパンで本フォーラムを実行します。

2010年 11月5日 [金] 開演 12:30

オーバルホール (毎日新聞ビル地下)

大阪市北区梅田3-4-5

一般2,000円 DAS会員1,000円 学生無料
資料代、懇親会費用を含みます。当日受付にてお支払いください。

定員200名

主催 社団法人総合デザイナー協会



共催 毎日新聞社

特別協賛



後援 近畿経済産業局 大阪府 大阪市 社団法人日本インダストリアルデザイナー協会

第 1 部

基調講演 12:35-13:35

人間科学研究にもとづくものづくり

篠崎彰大氏

株式会社ワコール 取締役・執行役員
人間科学研究所長



1976年 京都工芸繊維大学 工学部 意匠工芸学科 卒業
1976年 株式会社ワコール入社
中央研究所(人間科学研究所)へ配属
人間工学をベースとした人体の形態基礎研究に従事
(1982年 プラブラ社員として2年間プラブラする)
1995年 人間の感覚生理特性に配慮した新製品の開発を担当
2003年 執行役員、人間科学研究所長
2006年 取締役 執行役員 人間科学研究所長
(2008年まで 知的財産部長を兼任)
現在に至る



第 2 部

講演 13:40-14:30

テクノロジー×コミュニケーション

土屋泰洋氏

株式会社電通関西支社 プランナー



1981年生まれ。慶応義塾大学環境情報学部卒。株式会社電通 関西支社
ビジネス・ディベロップメント・センター ソリューション・デザイン室所属
東京インタラクティブアドアワード、ロンドン国際広告祭、
Yahoo!インターネットクリエイティブアドアワード、OCC賞など受賞多数

トークセッション 14:40-15:30

デジタルデザインプロセスとコミュニケーション手法

金谷道雄氏

ソリッドワークス・ジャパン株式会社
マーケティング部 担当部長



1983年3月 筑波大学第三学群情報学類卒業。
1983年4月 第二精工舎(現セイコーインスツル、以下SII)入社、情報システム事業部に
配属され、当時総代理店契約を締結したUnigraphics(SIIでは商標等の関係でU-Graph)
の技術・システム管理等に従事。
1997年5月 SIIを退職し、SolidWorksの総代理店であったKUSCOに入社。一貫して
SolidWorksのマーケティング全般に従事。
1998年12月 ソリッドワークス・ジャパン創立にともない、KUSCOから移籍。当時から現
在に至るまで一貫してSolidWorksビジネスの戦略立案やマーケティング全般を推進。現在
に至る。

飯田吉秋氏

有限会社アイ・シー・アイデザイン研究所
代表取締役



1947年愛知県生まれ。松下電器産業(現パナソニック)株を
経て、アイ・シー・アイデザイン研究所を設立。日用品から医
療機器、産業機器まで幅広くデザイン。BIO賞 Gold Medal、
MoMA 永久展示をはじめデザイン賞を多数受賞。たおれてもこ
ぼれないシリコンキャップKissシリーズでグッドデザイン賞中小
企業庁長官賞、第4回キッズデザイン賞、経済産業大臣賞を
受賞。知育玩具nocilisでもキッズデザイン賞、審査委員長特
別賞をダブル受賞。



講演 15:35-16:25

進化するものづくり事例 高度化社会の工作機械が
可能にする高度な工作・新しいビジネス

斉藤清和氏

入曾精密株式会社 代表取締役社長



1958年 9月9日生まれ
1977年 県立川越高等学校卒業、建設会社を経て
1983年 入曾精密入社
2000年 副社長就任
2002年 社長就任



特別協力:新築師寺 工作機械:(株)森精機製作所
協力:(株)キョードセンター
URL:<http://www.iriso-seimitsu.co.jp/>

特別講演 16:30-17:20

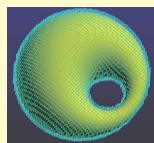
Volume CAD (VCAD) —ものづくりから医療まで—

加瀬 究氏

独立行政法人理化学研究所
東京大学工学博士



昭和40年生まれ (旧姓 高橋 究)
平成6年 東京大学大学院工学系研究科博士課程終了
博士(工学)精密機械工学
平成6年 理化学研究所入所
研究基盤技術部に研究員として配属
平成7年 中央大学理工学部兼任講師
平成13年 ものづくり情報技術統合化研究プログラム
ポリウムCAD開発チーム チームリーダー
平成18年 独立行政法人 放射線医学総合研究所 客員協力研究員
平成21年 中国 西安交通大学 客員教授
平成18年より知的財産戦略センター(現イノベーション推進センター)出向
VCADモデリングチーム チームリーダー 現在に至る



第 3 部

パネルディスカッション 17:30-18:20

フューチャープロセスを考える

コーディネーター 相原 洋氏 毎日新聞大阪本社 学芸部長

パネラー 土屋泰洋氏 金谷道雄氏 飯田吉秋氏 斉藤清和氏 加瀬 究氏



懇親会 18:40-19:30

フォーラム終了後、参加者、聴講者で簡単な懇親会を行ないます。

Future Process
DAS DIGITAL
COMMUNICATIONS
FORUM 2010

お申込み・お問い合わせ

社団法人総合デザイナー協会

大阪市北区梅田3丁目4-5 毎日新聞ビル内

▶TEL 06-6346-8695

▶FAX 06-6346-8696

▶Eメール das@das.or.jp

▶ホームページ www.das.or.jp



第 1 部

基調講演 12:35-13:35

人間科学研究にもとづくものづくり

篠崎 彰大 氏 株式会社ワコール 取締役・執行役員
人間科学研究所長

発表要旨

数々のヒット商品を世に送り出してきた株式会社ワコール。ヒット商品開発の裏には、45年間にわたって継続的に続けられている科学的な人間研究がある。講演ではワコールの研究機関でありコアコンピタンスでもある人間科学研究所で日々行われている人体計測(手計測から3D計測まで)をはじめとした具体的な研究活動の紹介とともに、最新の研究成果である「エイジング・・・加齢による体型変化の事実」を紹介し、その加齢変化を美しく乗り越えていくために開発した商品(歩いて歩くだけで体脂肪が減少するというクロスウォーカーや姿勢を美しく整えるシャキットブラなど)の開発事例を紹介する。

第 2 部

講演 13:40-14:30

テクノロジー×コミュニケーション

土屋 泰洋 氏 株式会社電通関西支社 プランナー

発表要旨

広告、メディアアートを中心に最新のデジタル技術を利用した作品を紹介。

トークセッション 14:40-15:30

デジタルデザインプロセスとコミュニケーション手法

3次元設計再考:デジタルものづくり新潮流が3次元化を加速する理由

金谷 道雄 氏 ソリッドワークス・ジャパン株式会社
マーケティング部 担当部長

発表要旨

従来の3次元CADは使いにくかった面があったが、昨今は直感的に操作することができる。

また最近では、設計者でもある程度構造解析や機構解析、熱解析ができる機能が用意されるようになった。ソリッドワークスには環境データベースも組み込まれており、設計中に代替材料の検証もできる。

自動車業界や電機業界を中心に普及が始まった3D単独図の作成にもソリッドワークスは対応している。

そして、一番問題になっている制御系の検討においても、この1、2年で、CADデータを使い制御プログラムを検証するプログラムが提供されるようになった。

3次元CADは道具。利用ノウハウを早く蓄積することが、企業の競争力の源泉になっている。

想いのままのものづくり:感性を具現化するプロダクトデザイン技法とヒット商品開発秘話紹介

飯田 吉秋 氏 有限会社アイ・シー・アイデザイン研究所
代表取締役

発表要旨

私はものづくりにおいて、「笑顔になるデザイン」を大事にしている。笑顔になるデザインをするには、常に生活者の目線で考え、満ち足りない状態を知らなければならない。

例えば、振っても倒してもこぼれないシリコンキャップ「KISSシリーズ」は、脳梗塞で倒れた父親に安心して水分を補給してもらうために開発したもの。ひっくり返すと形が変わるシリコン玩具「NOCILIS」は、夜でも音を気にせず積木遊びができるよう孫のために考えた。

開発には3次元CADを活用した。KISSシリーズの開発では声帯の筋肉の動きのシミュレーションに活用している。

デザインがそのまま商品になることがデザイナーの理想だが、3次元CADにより、それがようやく実現に向かいつつある。

講演 15:35-16:25

進化するものづくり事例 高度化社会の工作機械が可能にする高度な工作・新しいビジネス

斉藤 清和 氏 入曾精密株式会社 代表取締役社長

発表要旨

高度化社会がもたらすもの。それを、一言でいえば「変化をもたらす」ということだ。ここでの変化は、生活の利便性を追求した結果が、必ずしも幸福をもたらすことにはならないという事実を、結果として、今、我々に突き付けている。昨今のIT革命は、人類にこれまでもたらしてきた数々の変化の中でもその規模と質において共に、格別である。ものづくりの現場もここをしっかりと見極めて明日の企業戦略を立てて行かなければならない。今回のITによる変化は、決して乗り越えられないものではないということ。逆に乗り越えた暁には、未曾有のチャンスが待っていることを、入曾精密の30年間の取組みの中から得た、戦略を説明することにより報告する。

特別講演 16:30-17:20

Volume CAD (VCAD) —ものづくりから医療まで—

加瀬 究 氏 独立行政法人理化学研究所
東京大学工学博士

発表要旨

3次元CADは境界表現による、表面形状が中心でした。理研で開発してきたVolume CAD (VCAD) は表面の形状だけでなく、内部 (volume) の情報を持たせることにより、今まで一種類の材料だけであったのが、複数の材料 (媒質) を表現することができ、それをを用いた構造解析や熱流体シミュレーションの事例を報告します。

一方、volume dataは医療画像として広く使われており、VCADの持つこととなる媒質を区切る面表現と属性情報を一つの箱の中に押し込めて統一的に表現する方式 (KittaCube) を利用して、生体、医療や細胞へのモデリングに取り組みについて簡単に紹介します。

第 3 部

パネルディスカッション 17:30-18:20

フューチャープロセスを考える

コーディネーター

相原 洋 氏 毎日新聞大阪本社 学芸部長

パネラー

土屋 泰洋 氏 **金谷 道雄** 氏 **飯田 吉秋** 氏
斉藤 清和 氏 **加瀬 究** 氏

Future Process
DAS DIGITAL
COMMUNICATIONS
FORUM 2010

